

【家庭教育支援チーム】


(1)活動主体(チーム)について

①チーム名 (呼称)	与那国町家庭教育支援チーム (呼称: チームふがらっさ)
②活動拠点	町役場・小中学校
③活動範囲	与那国町全域
④組織体制	15 人 PTA 役員、公務員(役場、教員)、自営業(飲食店、農家)、会社員など。 現在子育て中の世代から、お孫さんのいる方まで様々な世代で活動している。
⑤活動開始年度	平成 28 年度
⑥問合せ先	(部署・氏名等) 与那国町教育委員会 教育課 家庭教育支援担当 杉本 夏代 (TEL)0980-87-2002(E-mail) natsuyo-s@town.yonaguni.okinawa.jp

(2)活動内容について

①活動形態 (複数チェック可能)	<input checked="" type="checkbox"/> 保護者等への学びの場の提供 <input type="checkbox"/> 保護者等への地域の居場所づくり <input type="checkbox"/> アウトリーチ型家庭教育支援(※保護者の居場所に出向いて届ける支援) <input type="checkbox"/> 自宅に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input type="checkbox"/> 保育所・幼稚園・学校等に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input type="checkbox"/> その他の保護者に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input type="checkbox"/> その他()
---------------------	---

<p>②活動対象</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/>乳幼児 <input checked="" type="checkbox"/>小学生(低学年) <input checked="" type="checkbox"/>小学生(中学年) <input checked="" type="checkbox"/>小学生(高学年) <input checked="" type="checkbox"/>中学生 <input type="checkbox"/>高校生以上 の子供を持つ保護者に対する活動を実施 </p>
<p>③活動内容</p>	<p>【具体的な活動内容】</p> <p>本町では平成28年以降、15歳以下の人口増加に伴い、複式学級解消や地域活性化などのポジティブな変化がみられる一方で、移住者と従来の地域住民との間で関係性作りの難しさが言われています。</p> <p>そこで、当チームは「保護者同士の繋がりをつくる」「地域と保護者・子どもを繋げる」を目標として、家庭教育支援を行っています。</p> <p>① 夢実現「親のまなびあい」プログラムの開催</p> <p>入学式や授業参観の時間を活用し、プログラムを実施しています。依頼先個々のケースに応じたワークシートの作成、当日の司会進行まで行っています。令和元年度は計84名の生徒・保護者・教員の参加がありました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>② 家庭教育支援スキルアップ研修会</p> <p>現在登録されているアドバイザーを含む地域住民を対象に年1回ほど研修会を実施しています。</p> 

	<p>③ ペアレントプログラムの開催</p> <p>令和元年度より長寿福祉課、教育委員会の協働で実施しています。</p> <p>本来は子育てに難しさを感じる保護者向けに行っているものですが、令和元年度は次年度以降のプログラム運営に向け、町内学校教諭・幼稚園教諭・保育所保育士、福祉業務に携わる職員14名を対象に行いました。</p> <p>令和3年度は4名の保護者を対象に実施し、令和元年度にプログラムを受講した教育関係者にアドバイザーとして運営に協力してもらいました。</p> 
<p>④活動の成果 (活動実績がある場合)</p>	<p>①②</p> <p>日ごろより親交がある保護者・生徒の参加でも家庭でのルールや子ども・自身の様子などを1つのテーマに沿って話しをすることに対し、「新鮮さを感じる」「今後も気軽に相談しあいたい」参加者が多くいることがアンケートよりわかります。</p> <p>また、普段交流の無い保護者や生徒、教員と一緒に参加し、話すきっかけを得ることにつながりも生まれます。プログラムに沿った進行を心がけつつも、グループワークから枝分かれしたゆんたくの雰囲気や大事な成果が表れたようです。</p> <p>③</p> <p>最終回で行ったアンケート調査では、子どもの行動について見つめなおすことはもちろん、受講者自身の自己肯定感の向上、パートナーの言動への理解の深まりなど前向きな変化の声が多く寄せられました。</p> <p>また、子育てや教育についての悩みを持つ者同士で共有・共感ができるワークの時間は子どもに対する理解を深めるだけでなく、保護者同士の関係構築に繋がるプログラムだったことがアンケートより伺えました。</p>
<p>⑤活動財源</p>	<p><input type="checkbox"/> 文部科学省補助事業(事業名:)</p> <p><input type="checkbox"/> 文部科学省委託事業(事業名:)</p> <p><input type="checkbox"/> 厚生労働省事業(事業名:)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 地方公共団体単独事業として実施</p> <p><input type="checkbox"/> 特段の予算措置はない(自主的に活動を実施)</p> <p><input type="checkbox"/> その他の支援により活動を実施</p> <p>(①②は県の予算を活用)</p>